

おわりに

今回、京都大学防災研究所は昭和26年創設以来はじめて、国内外の有識者に本研究所全体の外部評価をしていただいた。とくに、平成8年度に改組・拡充をはたし、同時にCOE研究機関に認められたのを契機に、自ら、自己点検評価報告書を作成するとともに、それをベースにして、研究所の組織、研究活動、COE活動と国際交流、教育活動、研究・教育環境、社会との連携活動などの項目について評価をいただいた。評価内容を項目別にまとめた第5章で明らかなように、評価された事項よりも改善を指摘された事項の方がはるかに多い。もちろん、自己点検評価報告書に内容不足や説明不足があったり、2月12日開催の討論形式の外部評価委員会でも議論を尽くせなかったとはいえ、指摘事項の中には私達が考えもしなかった事項もある。そのことこそが外部評価を実施したことの大きな意義と言える。

防災研究所の構成員はこれら指摘事項を真摯に受けとめ評価された事項についてはさらなる前進を、指摘事項や提言は改善と実現に向けてさらなる努力を課さなければならない。そのことが防災研究所が今後とも災害・防災科学のオンリーワンの、かつCOE研究機関として持続発展し、社会への貢献を従前以上に高める研究機関となろう。

最後に、大変ご多忙であるにもかかわらず本研究所の評価に対して絶大なご理解とご尽力をたまわった外部評価委員の皆様にご心から感謝の意を表します。

京都大学防災研究所
自己点検評価委員会

委員長 池 淵 周 一